

【課題番号】 4-2304

【研究課題名】 TNFDに向けた生物多様性評価指標の開発とサプライチェーン分析ツールの開発

【研究期間】 2023年度（令和5年度） ～ 2025年度（令和7年度）

【研究代表者（所属機関）】 金本圭一郎（国立大学法人東北大学）

研究の全体概要

2023年9月に最終提言が出される自然関連財務情報開示タスクフォース（以下「TNFD」）に対応するため、企業は自社のサプライチェーンに内在する様々な自然関連リスクの報告と低減が求められつつある。しかしながら、企業活動が自然に与える影響、特に生物多様性リスクを定量化することは非常に難しい。その理由は、第一に、企業がどこでどのような活動を行うことが生物多様性を危機に晒すのかを理解することが難しいこと、そして企業が自社のサプライチェーンや農作物や鉱物の調達であればその生産場所を十分に把握していないことである。

このような背景の中で、既存研究ではサプライチェーンに内在する生物多様性リスクを世界規模で初めて明らかにし、さらに、そのリスクをマップ化してきた。しかしながら、これらの研究を含む関連研究は企業が生物多様性への影響を定量化するには課題が多い。その中の一つに、農作物や鉱物といった土地利用改変に伴う商品が生物多様性損失の主要な原因であるが、多くの国は「農業」をひとまとまりとするとといった粗い分類である。このような分類のもとでは、大豆や牛肉などの生物多様性に影響の大きいと考えられている商品の調達と比較的影響の小さいと思われる商品の調達を区別できず、TNFD対応に向けたサプライチェーンに内在する自然関連リスクの正確な報告と低減に向けた対策が難しい。また、既存の生物多様性関連指標は、生物多様性の損失の面だけに焦点を当てており、TNFDのBetaで求めているネイチャー・ポジティブな部分への評価ができていない。

そこで、本研究では企業が調達する農作物や鉱物について、あるグリッドや国から調達する際のサプライチェーン全体での生物多様性への正と負の影響を評価できるツールを開発する。

